

第 9 ・ 1 0 回新宿区高齢者保健福祉推進協議会作業部会 議事概要

(平成 2 9 年 6 月 2 0 日 ・ 7 月 2 5 日開催)

<新宿区高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画（素案）について>

【第 1 章 計画策定の概要】

【第 2 章 計画の基本的考え方】

- ・「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」では、対象が在宅介護利用者のみである。施設利用者の声も反映してほしい。
- ・在宅療養の可能性についての設問では、多くの人は自宅で最期を迎えたいと考えている（調査報告書 p. 81）が、現実には難しい状況がある。その理由は家族への負担感であることから、これらの課題に対する対応策がなされないと不十分である。
- ・健康度で「まあまあ健康」という層にリスクがあり、介護予防でこの層の増加を食い止めないといけない。

【第 3 章 高齢者保健福祉施策の推進】

《本文》

◆共通事項

「④各施策を支える事業」について、新規事業なのか、継続事業なのか区別ができない。
⇒標記については、改めていきたい。

◆重点施策Ⅰ 「地域の活力」を生かした高齢者を支えるしくみづくり

- ・今回の計画では、住民の自主性を生かした地域づくりの気運を高めるような記述が必要になる。
- ・区の特徴はひとり暮らし高齢者が多いことである。孤独死防止に向けた取組み、見守り支え合いだけでは不十分。アクセスしてこない人もいるので、何らかの取組が必要である。ICTを用いた取組があれば教えてほしい。
- ・地域包括ケアを進めていく大事な部分として「居場所づくり」をどのように行っていくのかをもう少しアピールしてほしい。

◆重点施策Ⅲ 認知症高齢者への支援体制の充実

- ・認知症施策で薬剤のコントロールが重要だと思う。医療との連携で、薬剤師の方の関わり方を含めて検討していただきたい。

◆施策 2 介護者への支援

- ・「介護者」の表記については、介護従事者、家族等介護者という意見もあったが「介護者」のまま誤解はないか？
⇒「家族等介護者」とすると、家族が介護をするのが当然ともとられかねないので、表記はこのままとした。文章中で誤解がないようにしていく。

◆施策3 安全・安心な暮らしを支えるしくみづくり

- ・災害時の対策については、高齢者保健福祉計画にどこまで記載するか、検討する必要がある（他計画との役割分担の検討）。
- ・消費者被害の防止に福祉の現場からネットワークの活用という視点はあるが、消費者生活センターから福祉に繋げるルートも設ける必要がある。

◆施策4 いきがいのある暮らしへの支援

- ・地域交流館等の利用者数の指標について、交流館あたりの人数がまだまだ少ないと感じるので検討してもらいたい。

◆施策9 介護保険サービスの提供と基盤整備

- ・介護保険サービス提供の基盤整備で、量的には整備されつつあるので質の向上を目指していくことも必要である。
- ・地域包括ケアも重要だが、施設の受け皿を広げることも必要である。

《施策のイメージ》

- ・事例が入ってわかりやすくなったが、この事例のポイント解説があった方が良い。
⇒下線がポイントになるため、説明を加えていく。
- ・地域を支える多様な担い手はデイサービスで維持・改善した方がボランティアの担い手になることもあるので、それも含めて欲しい。
- ・施策のターゲット層イメージを作り上げてしまう可能性がある。本当に困っている人が抜けてしまわないよう工夫して欲しい。
⇒誤解が生じない書き方にしていきたい。

《指標》

- ・利用者側により結果をもたらしていることがわかるような指標や、アウトプットだけではないアウトカムの指標の検討もお願いしたい。

【第4章 介護保険事業の推進（第7期介護保険事業計画）】

- ・入所の要望でサービス量が決まるので、施設入所待ち人数を勘案し、保険者として施設整備をどうするか検討してほしい。

【第5章 計画の推進に向けて】

- ・介護人材の確保、育成については、数は確保できても人材はいない現状がある。